

持続可能な どうするまちの将来像



こんな意見も

【吉原】シニアも受け入れて良いと思う。若い人もシニアも大山町に来る、そういうことを考えていけばと思う。豊かで住みやすいまちであってほしい。

【大杖】まちづくりは人づくりからです。それには教育が重要な要素です。学校教育から社会教育まで、果たす役割は大きいと思います。

【森本】高齢者の経験や知識を生かして、子ども達を育ててもらう。世代が世代を繋ぐ、そういう政策を進めてほしいと思います。

【岡田】子育て支援も充実してきたが、一方、高齢者対策も必要だと思う。健康指導を行い、住み慣れた地で、自立した生活ができることが、一番大切だと思います。

【大森】高齢者と子どもとの結びつきをしていく工夫も、持続可能なまちづくりにつ

ながっていくのではないかと思います。

【西尾】100歳まで生きるようになったら、80歳までは元気なうちは働いてください。そうすると年金ももつのではないかな。

【門脇】高齢者に活躍してもらうのは大事なことです。活動の幅が広がっていく団体には、活動が伸びるようなかたちを考えていくべきではないかと思っています。

【池田】今、必要ないと思っ
ていても、10年後を考えると交通問題は大事。高齢化に何が必要かを考えて活動すると、参加しやすくなる
と考えられます。

【加藤】広域な範囲ではなく、狭い地域で活動を希望する団体にも、補助金などを作っていく必要があると思いま
す。

【大原】にぎやかかしのものは、まず人と出会ったときの第1歩だと思っています。

あいさつ運動を続けていきたいなと思っています。

【野口昌】部落のなかで事業をやっているところを、出
席を義務としてお金を出すこと。個が強くなった社会ということを考えなければいけないと思います。

【米本】住民が問題意識を持つか持たないかが、大事になってくると思います。そこに目が向いた時、持続可能なまちというのが、生まれてくると思います。

【西山】家族の力、個人の力、近所の力、町民の力、これ

らを大事にする社会をつくらべきだと思います。

討論会を終えて

持続可能なまちであるためには、雇用や経済、少子高齢化など、課題は多岐にわたり、今回の討論会ではさまざま分野にわたる意見が出ました。

そのなかで、世代間交流などを通じた地域でのコミュニケーションや助け合いが重要である、というのが共通した意見でした。

より活力があり、持続可能なまちづくりに向け、私たち議会も提言を重ねます。



笑顔あふれる世代間交流 (大雀集落)